

Sumitomo Dental Clinic News Letter 2018年1月号

堺市北区蔵前町3-2-8 サンロード蔵前104

☎072-250-3117

住友歯科医院

検索Q



新年あけましておめでとうございます。

住友歯科医院 院長の住友 敏彦です。

お正月はいかがお過ごしでしたか？ゆっくり休めましたか？

この新しい年が医院にとりましても、なにより皆さんにとりましても、より佳き年でありますよう心から祈念いたします。

お困りごとがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。



■ ごあいさつ

こんにちは。いつも住友歯科医院においでいただきありがとうございます。院長の住友敏彦です。

一月の異名でもある「初空月」とはよく言ったもので、新しい年を迎えると、普段見上げている空も希望に満ちているように感じられるのがなんと不思議です。

皆様はどんな年末年始を過ごされましたか？クリスマスもお正月休みも返上でお仕事をされていた方もいらっしゃると思います。

今回は、先日妻と行った神戸の「ルミナリエ」での一コマと、そこで感じたことをお話したいと思います。

■ 光に祈りを込めて

神戸の冬の風物詩となった光の彫刻「ルミナリエ」は、阪神・淡路大震災犠牲者の鎮魂の意を込めるとともに、都市の復興・再生への夢と希望を託し、1995年12月に開催されたのが始まりです。夜景で名高い街・神戸の中でもひ

ときわ輝いております。

人が多く訪れてはいても、商店は仕事にならないといった弊害もあるようですが、個人的には人と街の「希望」を象徴する行事として、長く続けていっていただきたいと思っています。

近年は資金難らしく、街頭では学生ボランティアのみなさんが、白い息を吐きながら「100円募金」を呼びかけていました。「寒空の中大変でしょうに…」ルミナリエのファンとして、何より同じ年頃の子どもがいる親として、妻がすかさず募金箱に向かいました。私も僅かばかりですが募金箱に納めました。似た者夫婦とでも申しましょうか、夫婦で同じ思いだったらしく、笑いあっておりました。

2018年も、大切な皆様や、医療の現場で私を支えてくれるスタッフたちの毎日が、明るいものでありますよう心よりお祈りします。

今年一年、どうぞよろしく願いいたします。

住友歯科医院 院長 住友 敏彦



2017年末某日ステーキハウスにて「忘年会」

謹賀
新年

2018年も住友歯科医院スタッフ一丸となり皆様のお口の健康を守っていきます。どうぞ私共にお任せください!!

スタッフ一同



住友院長のおもしろこぼれバナシ

Hot Break Times



住友歯科医院
Topics

メンテナンスの大切さ

より快適に、もっと歯周病を治すために住友歯科医院で取り組んでいること。



■ 治療が終わってからがスタート

治療が終了すると、私たちは患者様に「次は3ヶ月後に診せに来てくださいね」とお伝えしております。

3ヶ月ごとに診せていただくことが理想ですが、少なくとも半年に一度はメンテナンスにお越しただけなら幸いです。

これこそが、治療後も快適に過ごしていただくための重要なポイントです。治療後のメンテナンスでは、私どもは次のようなことに重点を置いて調べています。

①プラークコントロールの状態

お口の中の清掃の状態を診ます。磨き残しのあるところをチェックし、きれいにするとともに、日頃の歯磨きの仕方について、アドバイスさせていただきます。

②人工歯の状態

詰め物や被せ物そのものの状態に問題がない事を確認する事はもちろんですが、詰め物や被せ物と歯の間に隙間が出来ていたり、虫歯になったりしていないかといった状態について確認します。詰め物や被せ物の状態が悪いまま使っていると無理な力をかけて咬むことになり、歯茎に炎症が起こったりします。

③詰め物や人工歯の異常

インプラントについている人工歯は、使っているうちに少し緩みが出ることがあります。人工歯が破折したり、咬み合わせに影響します。ご自身では異常に気づきにくいため定期的に歯科医院で調べる必要があります。

④咬み合わせの確認

当医院では基準に沿った咬み合わせになるようお口の中を設計させていただいております。しかし、②でも説明しましたが、使っているうちに咬み合わせに狂いが生じてきます。また人工歯だけでなく、残っている歯やあごの骨の状態など、ご自身の体も少しずつ変化します。それに合わせて咬み合わせを調節する必要があります。

⑤歯ぐきなど粘膜の異常

人工歯と歯ぐきの接する境目は、汚れが溜まりやすい場所です。定期的に状態を確認する必要があります。また詰め物や人工歯の周囲に炎症が起きていないか、頬の粘膜や舌に傷ができていないかを確認します。

皆様のお口の管理を担当しております、当医院の歯科衛生士は、全員経験豊富で高水準の確かな技術を持っています。どうぞ安心してお任せください。

思い出写真館とめぐる Dr.Toshihiko's Essay 「忘年会&新年会」

忘年会に引き続き、新年会シーズンですね。公私ともに宴席が増えることと思います。どうぞ暴飲暴食は避け、ご自愛の上楽しくお過ごしください。

さて、この「忘年会」と「新年会」。新年会の方は「New Year Party」として、伝統的な新年行事から、ヨーロッパの風習まで世界中で様々ありますが、どうやら「忘年会」は日本独自の風習のようです。

日本初の忘年会は鎌倉時代に年末に行われた『年忘れ』と呼ばれる会が起源になります。しかし、この会は連歌を読むのが目的で、現在行われている忘年会には程遠いものでした。

現在の忘年会に近くなったのは江戸時代。一般庶民が一年間の憂さを晴らすために親しい者が年末に酒を酌み交わすようになったのがルーツです。一方、武士は『新年会』は開いたが『忘年会』は開かず、これで町民との身分の違いを見せたとか。今のようなどんちゃん騒ぎの『忘年会』が年中行事化したのは明治時代になります。故郷に帰らず、東京に居残っていた学生と官僚が始めたそうです。ちなみに「忘年会」という名前が文献に始めて出てくるのは、夏目漱石が明治後期に書いた「我輩は猫である」です。



こちらは忘年会。スタッフ&学友であり、現在当医院の顧問税理士である寺口先生と。➡